

## 血清総コレステロール濃度 (図表40)

以下の図では、対照が赤、有意差なしが緑、有意差ありが青としています。

### 全死亡

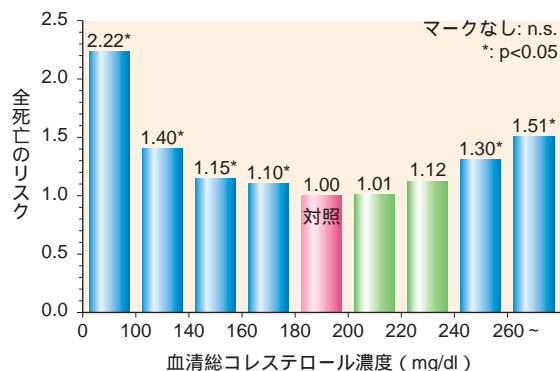


表 透析前血清コレステロール濃度のリスク (全死亡)

透析前血清コレステロール濃度 (mg/dl)	ハザード比	(95%信頼区間)	p 値
< 100	2.223	(2.016 ~ 2.451)	<.0001
100 < 140	1.400	(1.305 ~ 1.502)	<.0001
140 < 160	1.147	(1.065 ~ 1.235)	0.0003
160 < 180	1.096	(1.015 ~ 1.183)	0.0195
180 < 200	1.000	( 対照 )	対照
200 < 220	1.008	(0.910 ~ 1.117)	0.8776
220 < 240	1.124	(0.989 ~ 1.278)	0.0735
240 < 260	1.297	(1.089 ~ 1.545)	0.0036
260	1.509	(1.238 ~ 1.839)	<.0001

血清総コレステロール濃度が180mg/dl未満の血清総コレステロール濃度が低い患者でリスクが高くなっています。これは低栄養に伴うリスクの増加を示しているものと考えられます。

一方、240mg/dl以上の高い血清総コレステロール濃度においてもリスクの増大が認められます。

血清総コレステロール濃度と1年間の生命予後との関係については、2001年末の現況報告<sup>3)</sup>においても報告されています。この際の解析では260mg/dl以上の血清総コレステロール濃度で有意なリスクが観察されています。この解析では240~260mg/dlのリスクは有意ではありませんでしたが、今回の解析で示されたリスクとほぼ同等の値が示されており(非糖尿病:1.22倍、糖尿病:1.45倍)、今回示された結果は過去の解析結果と大きく矛盾しないと考えられます。

### 心不全死

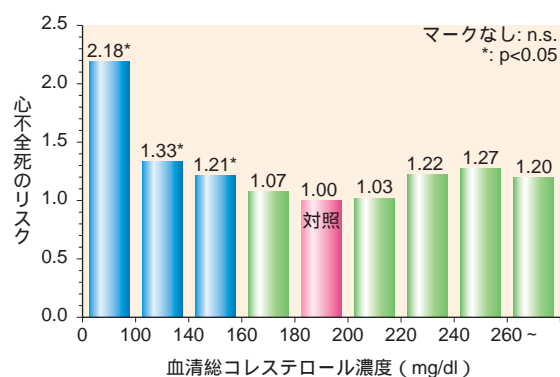


表 透析前血清コレステロール濃度のリスク (心不全死)

透析前血清コレステロール濃度 (mg/dl)	ハザード比	(95%信頼区間)	p 値
< 100	2.178	(1.792 ~ 2.647)	<.0001
100 < 140	1.329	(1.156 ~ 1.528)	<.0001
140 < 160	1.214	(1.050 ~ 1.404)	0.0090
160 < 180	1.073	(0.922 ~ 1.249)	0.3626
180 < 200	1.000	( 対照 )	対照
200 < 220	1.025	(0.839 ~ 1.252)	0.8102
220 < 240	1.220	(0.956 ~ 1.558)	0.1099
240 < 260	1.270	(0.900 ~ 1.791)	0.1738
260	1.199	(0.783 ~ 1.836)	0.4049

160mg/dl未満の低い血清総コレステロール濃度において有意に高いリスクを認めます。これは低栄養状態が心不全のリスクとなることを示しているものと思われます。

一方、全死亡での解析とは異なり、高い血清総コレステロール濃度でのリスク増大は認められませんでした。

## 心筋梗塞の発症

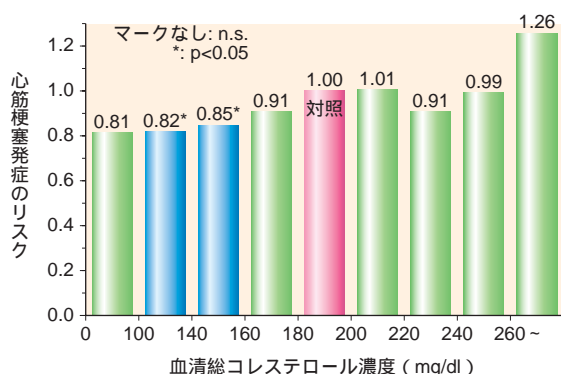


表 透析前血清コレステロール濃度のリスク (心筋梗塞の発症)

透析前血清コレステロール濃度				
(mg/dl)	ハザード比	(95%信頼区間)	p 値	
< 100	0.810	(0.625 ~ 1.048)	0.1089	
100 < 140	0.823	(0.715 ~ 0.948)	0.0070	
140 < 160	0.849	(0.733 ~ 0.983)	0.0287	
160 < 180	0.908	(0.782 ~ 1.054)	0.2052	
180 < 200	1.000	( 対照 )	対照	
200 < 220	1.005	(0.829 ~ 1.218)	0.9608	
220 < 240	0.908	(0.698 ~ 1.180)	0.4690	
240 < 260	0.989	(0.683 ~ 1.432)	0.9536	
260	1.258	(0.848 ~ 1.867)	0.2548	

160mg/dl未満の低い血清総コレステロール濃度でリスクが低い結果です。逆に言えば、血清総コレステロール濃度160mg/dl 未満の患者に比べて、160mg/dl以上の患者では心筋梗塞発症のリスクが高いことを示していると言えます。

血清総コレステロール濃度200mg/dl 以上でのリスク増大は有意ではありませんでした。

## 脳梗塞の発症

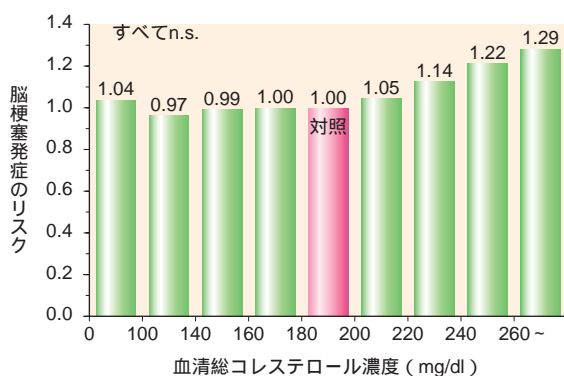


表 透析前血清コレステロール濃度のリスク (脳梗塞の発症)

透析前血清コレステロール濃度				
(mg/dl)	ハザード比	(95%信頼区間)	p 値	
< 100	1.040	(0.861 ~ 1.257)	0.6836	
100 < 140	0.970	(0.872 ~ 1.079)	0.5769	
140 < 160	0.991	(0.888 ~ 1.106)	0.8667	
160 < 180	0.999	(0.893 ~ 1.118)	0.9871	
180 < 200	1.000	( 対照 )	対照	
200 < 220	1.052	(0.911 ~ 1.215)	0.4875	
220 < 240	1.137	(0.949 ~ 1.363)	0.1645	
240 < 260	1.216	(0.941 ~ 1.572)	0.1355	
260	1.293	(0.964 ~ 1.734)	0.0867	

血清総コレステロール濃度のどの水準にも有意なリスクを認めていませんが、220mg/dl 以上では血清総コレステロール濃度が高いほど脳梗塞発症のリスクが高くなる傾向が認められます。

## 脳出血の発症

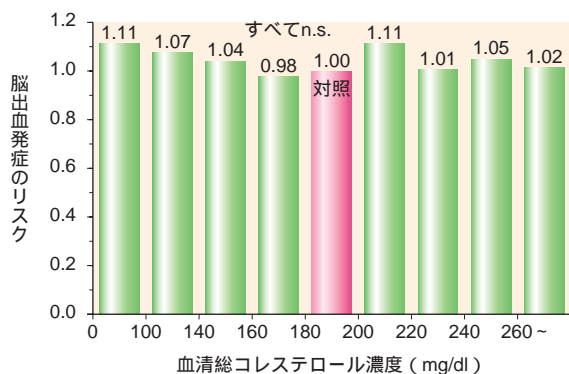


表 透析前血清コレステロール濃度のリスク (脳出血の発症)

透析前血清コレステロール濃度				
(mg/dl)	ハザード比	(95%信頼区間)	p 値	
< 100	1.112	(0.836 ~ 1.479)	0.4654	
100 < 140	1.074	(0.914 ~ 1.262)	0.3868	
140 < 160	1.041	(0.880 ~ 1.230)	0.6398	
160 < 180	0.981	(0.825 ~ 1.166)	0.8263	
180 < 200	1.000	( 対照 )	対照	
200 < 220	1.114	(0.897 ~ 1.384)	0.3284	
220 < 240	1.006	(0.751 ~ 1.348)	0.9676	
240 < 260	1.052	(0.690 ~ 1.605)	0.8130	
260	1.019	(0.613 ~ 1.695)	0.9413	

血清総コレステロール濃度と脳出血発症の間に全く有意な関係は認められません。

敢えて言えば、160mg/dl 未満の低い血清総コレステロール濃度でリスクが高くなっている印象があります。